

AP-RA8P-0A

XrossFlash を使用したサンプルプログラム書き込み方法

1.0 版 2026 年 01 月 07 日

1. 概要.....	2
1.1 概要	2
1.2 使用環境.....	2
1.3 CPU ボード スイッチ設定	2
1.4 XrossFlash 資料に関して.....	2
2. ソフトウェア準備.....	3
3. XrossFlash LT/PRO を使用した書き込み.....	4

1. 概要

1.1 概要

本アプリケーションノートは、XrossFlash LT/PRO を使用して AP-RA8P-0A にサンプルプログラムを書き込むための手順をまとめたものです。各機能に関する詳細は、サンプルプログラムのソースコードやサンプルプログラム解説、ハードウェアマニュアル、回路図をご覧ください。

1.2 使用環境

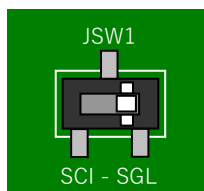
本アプリケーションノートの解説で用いる開発環境を以下に示します。

ハードウェア	バージョン	備考
AP-RA8P-0A	–	–
XrossFlash	V1.0.0.0	–

ソフトウェア	バージョン	備考
XsWriter	V1.0.0.0	–
プロジェクト&コマンドファイル	–	–
AP-RA8P-0A サンプルプログラム	V1.0	–

1.3 CPU ボード スイッチ設定

プログラムを書き込む際にボード上のディップスイッチを設定する必要があります。



JSW1 : SGL

JSW2 の設定は 不問 です。

1.4 XrossFlash 資料に関して

ユーザーズマニュアルは、弊社 Web サイトの製品紹介ページで公開されています。

XrossFlash PRO 製品ページ

https://www.apnet.co.jp/product/tool/xrossflash_pro.html

XrossFlash LT 製品ページ

https://www.apnet.co.jp/product/tool/xrossflash_lt.html

2. ソフトウェア準備

XrossFlash では、専用コントロールソフト「XsWriter」を使用します。
以下の手順で、インストールしてください。

- ① XrossFlash LT/PRO 製品ページより、以下のファイルをダウンロードしてください。

ダウンロード名	File 名
XsWriter	XsWriter_Installer_xxxx.zip
プロジェクト&コマンドファイル	ProjectCommandFiles.zip

ダウンロード

マニュアル・ドキュメント	パスワード	バージョン	更新日
XrossFlash PRO ユーザーズマニュアル(簡易版)		1.0	2025/12/10
AN2401 XrossFlashターゲットインタフェース構成例		1.0	2025/12/10
AN2403 XrossFlash デバイス対応リスト		1.0	2025/12/10

[ユーザー限定] マニュアル・ドキュメント	パスワード	バージョン	更新日
XrossFlash PRO ユーザーズマニュアル		1.0	2025/12/10
AN2402 XrossFlashリモートモード通信コマンド		1.0	2025/12/10
サポートサービス規定		-	2025/12/15

[ユーザー限定] ソフトウェア・更新データ	パスワード	バージョン	更新日
XsWriter		1.0.0	2025/12/15
プロジェクト&コマンドファイル		-	2025/12/15

※上記は HP のイメージです。内容は異なる場合があります

- ② ダウンロードした ZIP 圧縮ファイルを任意のフォルダに解凍・展開します。
解凍用パスワードは、製品に「ダウンロード・保証のご案内」に記載されています。
- ③ 展開したファイルの XsWriter_Installer_xxxx.msi を実行すると、XsWriter のインストールが開始されます。

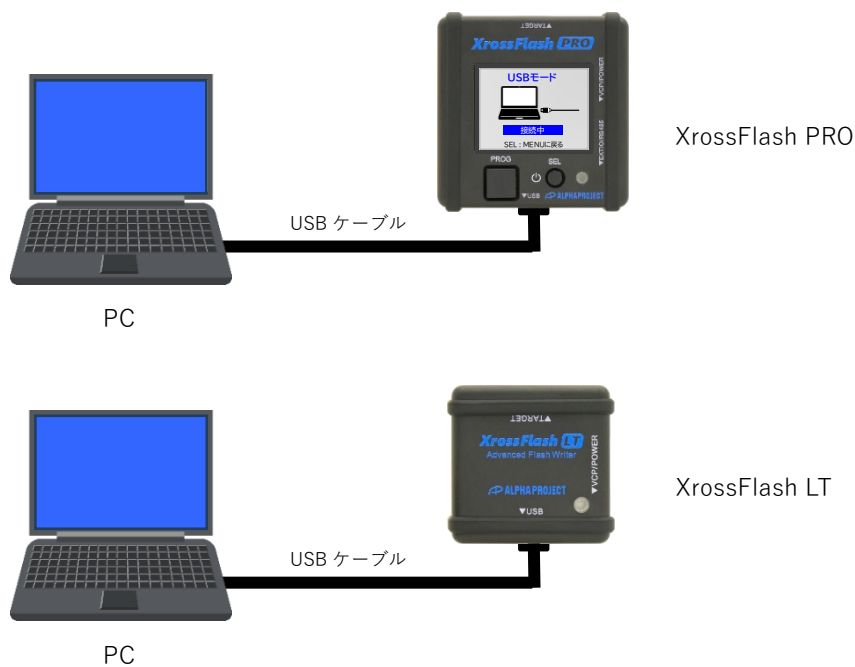
3. XrossFlash LT/PRO を使用した書き込み

本章では、AP-RA8P-0A に XrossFlash を使用してプログラムを書き込む方法を説明します。
例として、UART_MEMORY サンプルプログラムを書き込む手順を記します。

- ① PC と XrossFlash を接続します。

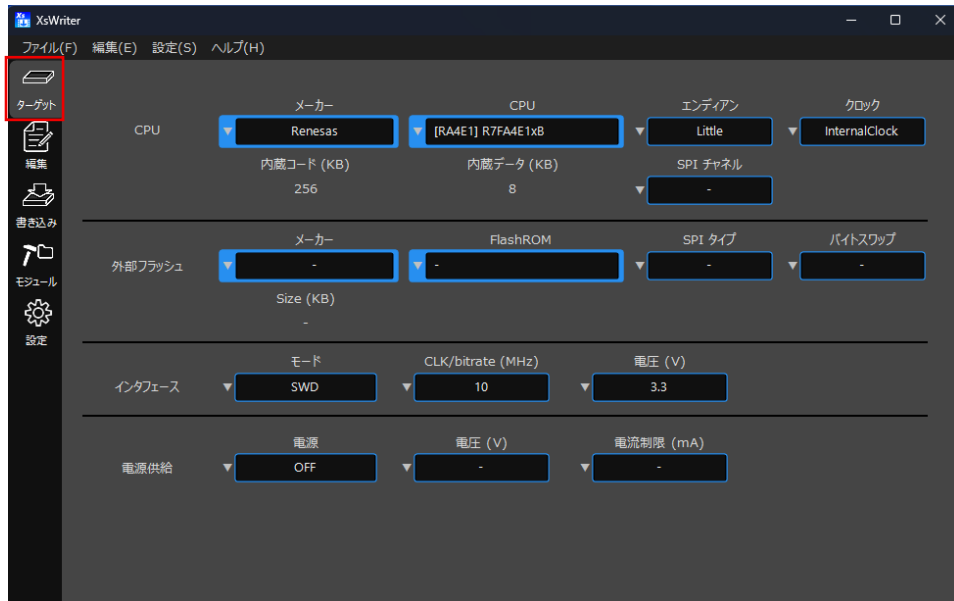
この時点で XrossFlash と AP-RA8P-0A を接続する必要はありません。

XrossFlash PRO の場合は、電源を ON にし、「USB モード」に設定してください。

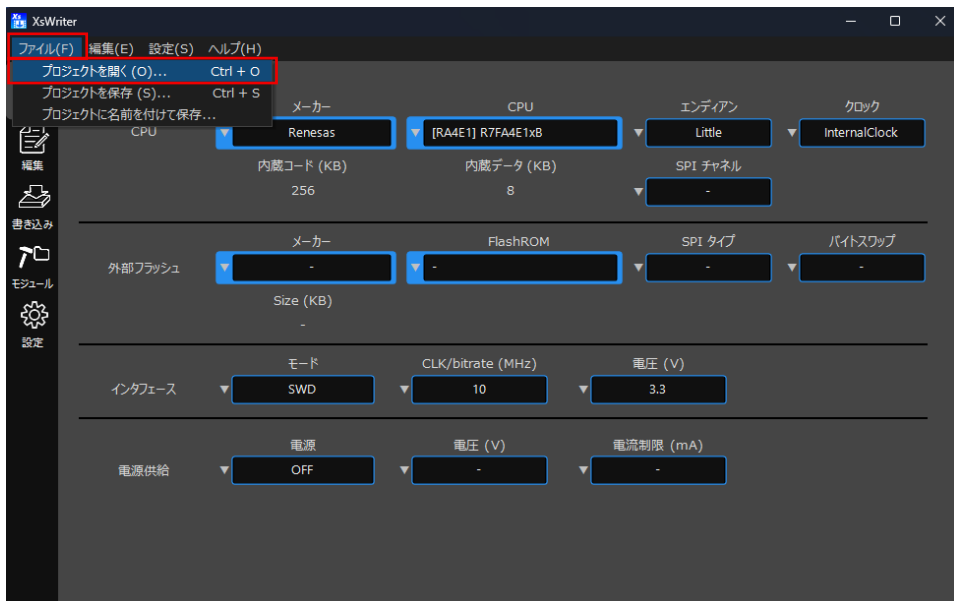


- ② PC 上で XsWriter を起動します。

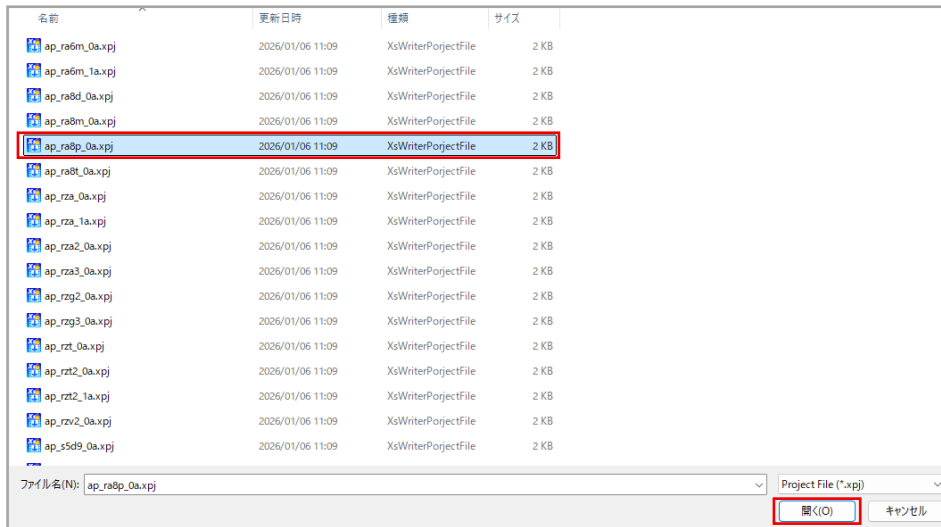
- ③ 「ターゲット」タブを選択します。
デフォルトでは以下の設定になっています。



- ④ 「ファイル」→「プロジェクトを開く」を選択します。



- ⑤ ProjectCommandFiles 内の「ap_ra8p_0a.xpj」を選択し、「開く」をクリックします。

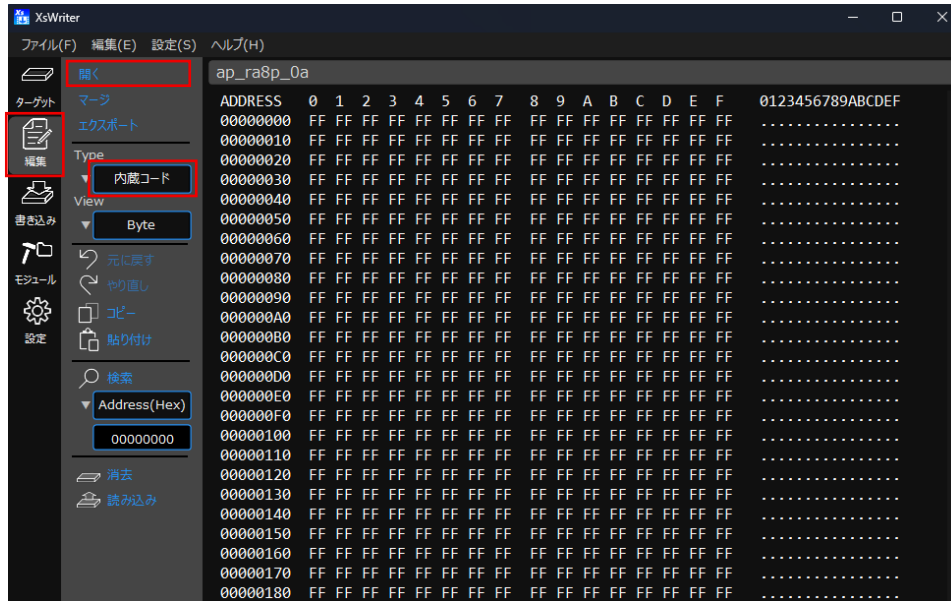


- ⑥ AP-RA8P-0A の CPU、SPI フラッシュの設定になります。



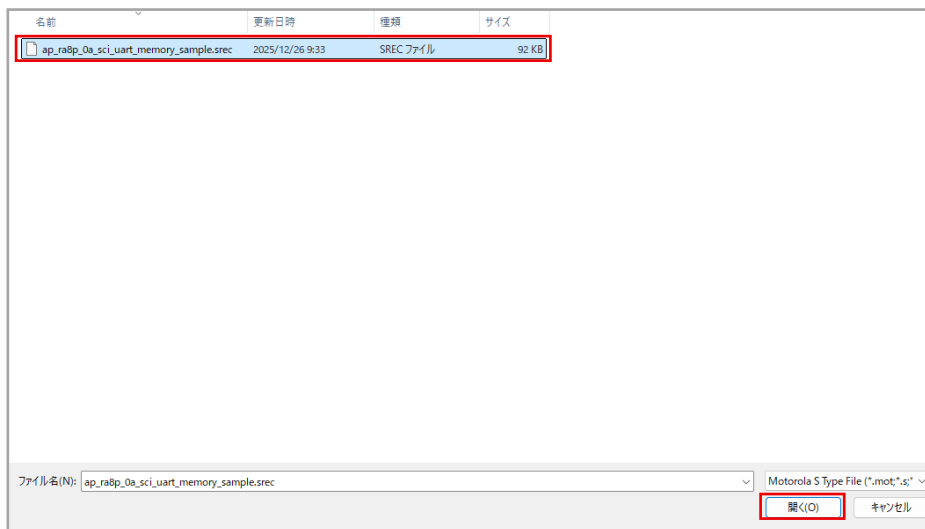
⑦ 「編集」タブを選択します。

サンプルプログラムは内蔵 MRAM に書き込みます。Type が内蔵コードになっていることを確認してください。「開く」をクリックし、プログラムファイルを読み込みます。

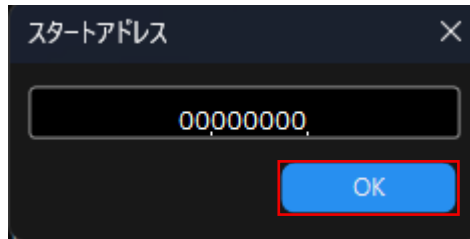


⑧ 書き込むサンプルプログラムを選択し、「開く」をクリックします。

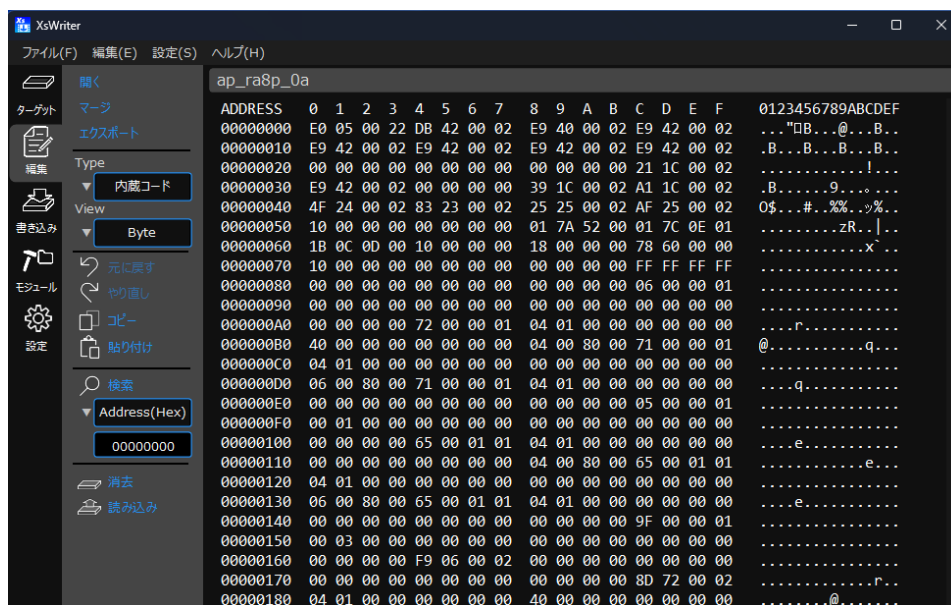
ap_ra8p_0a_sample/sample/ap_ra8p_0a_sci_uart_memory_sample/Debug 内の ap_ra8p_0a_sci_uart_memory_sample.srec ファイルを書き込みます。



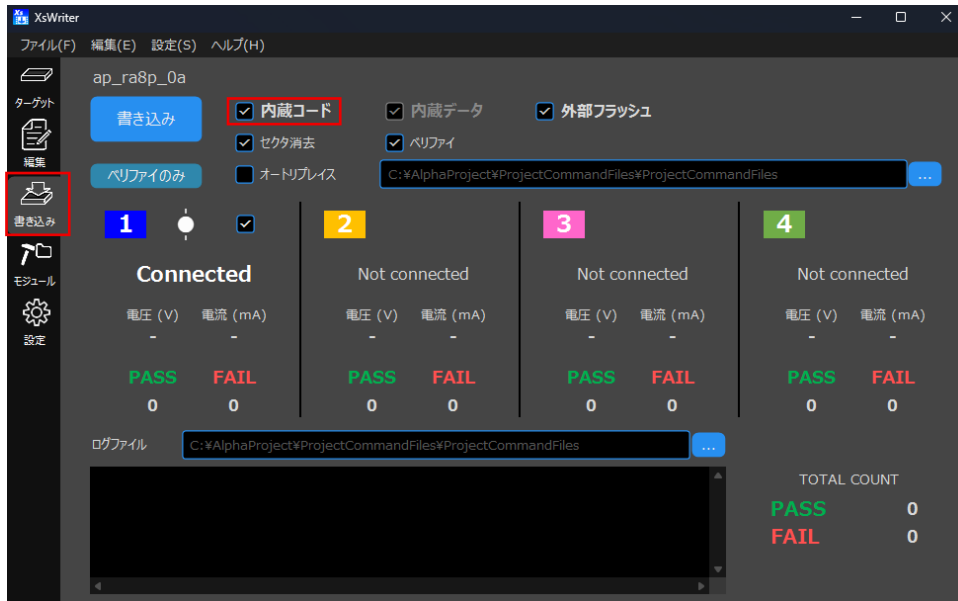
- ⑨ スタートアドレス「00000000」に設定し、「OK」をクリックします。



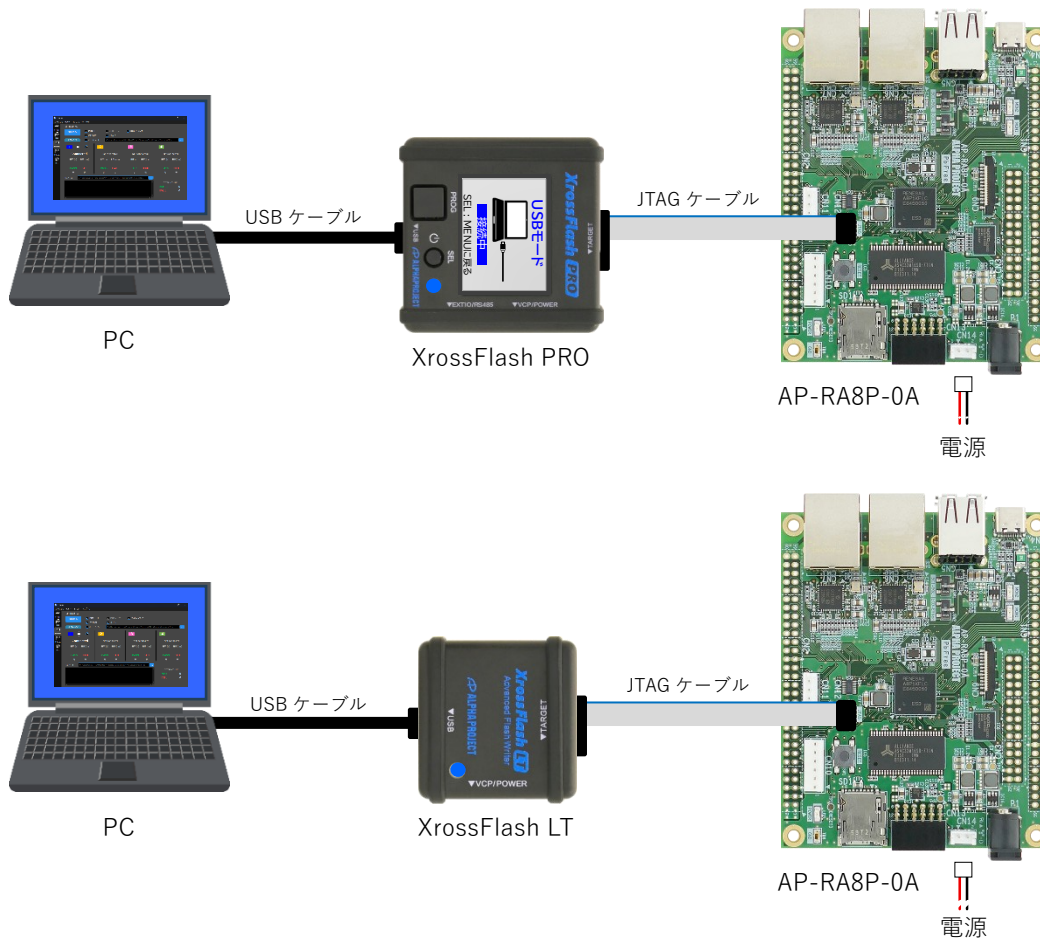
- ⑩ 書き込むデータがセットされます。



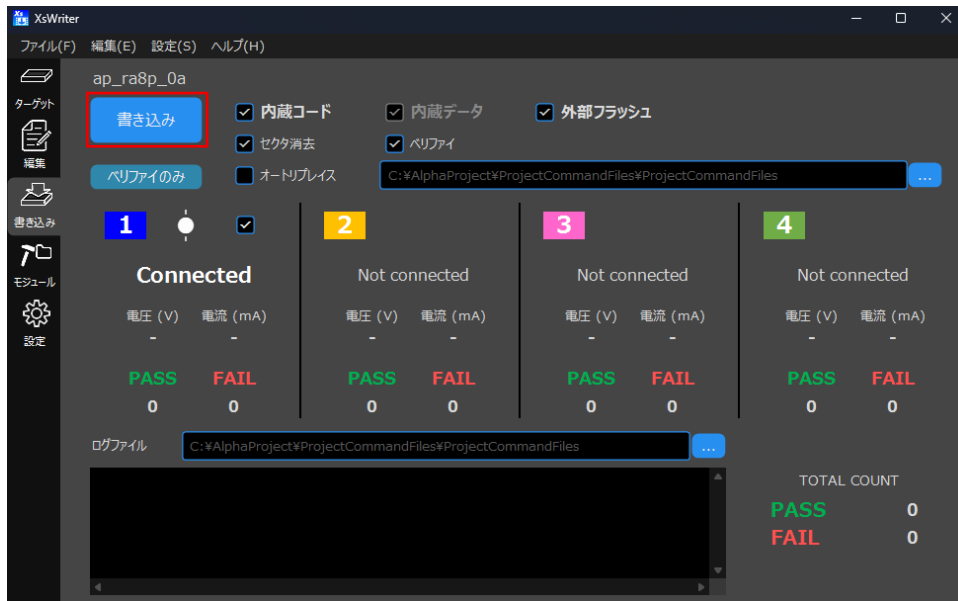
- ⑪ 「書き込み」タブを選択します。
内蔵コードにチェックが入っているか確認してください。



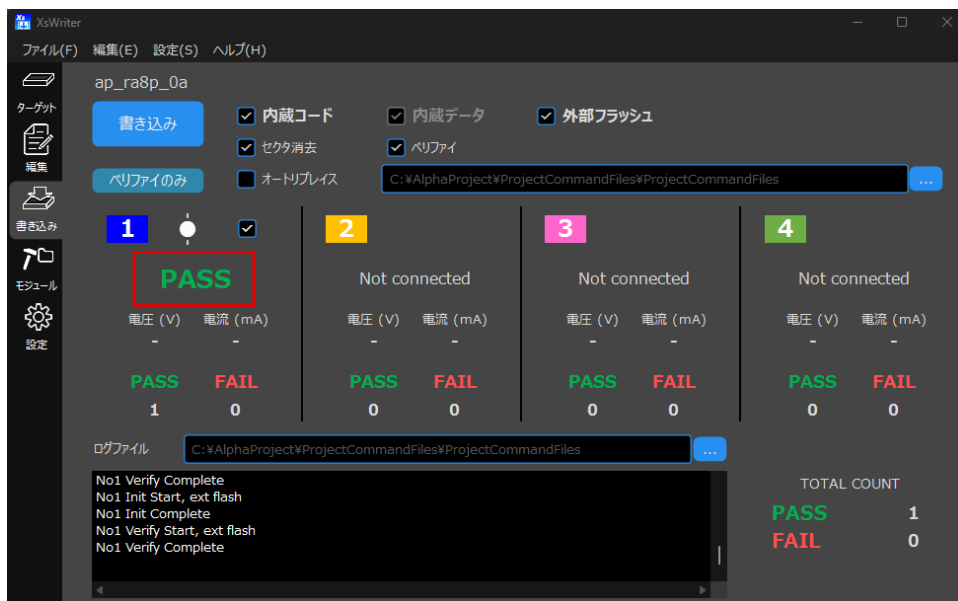
- ⑫ AP-RA8P-0A と XrossFlash を接続し、電源を投入します。



- ⑬ 「書き込み」 ボタンをクリックするとプログラムの書き込みを開始します。



- ⑭ PASS と表示されたら正常に書き込みは完了です。
AP-RA8P-0A の電源を切り、ケーブルを抜いてください。



ご注意

- 本文書の著作権は株式会社アルファプロジェクトが保有します。
- 本文書の内容を無断で転載することは一切禁止します。
- 本文書に記載されているサンプルプログラムの著作権は株式会社アルファプロジェクトが保有します。
- 本サンプルプログラムで使用されているミドルウェアおよびドライバの著作権はルネサス エレクトロニクス株式会社が保有します。
- 本文書に記載されている内容およびサンプルプログラムについてのサポートは一切受け付けておりません。
- 本文書の内容およびサンプルプログラムに基づき、アプリケーションを運用した結果、万一損害が発生しても、弊社では一切責任を負いませんのでご了承ください。
- 本文書の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点、誤りなどお気付きの点がありましたら弊社までご連絡ください。
- 本文書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

商標について

- RA ファミリおよび RA8P1 は、ルネサス エレクトロニクス株式会社の登録商標、商標または商品名称です。
- その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

 **ALPHA PROJECT**
株式会社アルファプロジェクト
〒431-3114
静岡県浜松市中央区積志町 834
<https://www.apnet.co.jp>
E-MAIL : query@apnet.co.jp